

平成23年度 児童生徒の生活習慣病予防対策

肥満統計の概要と考察

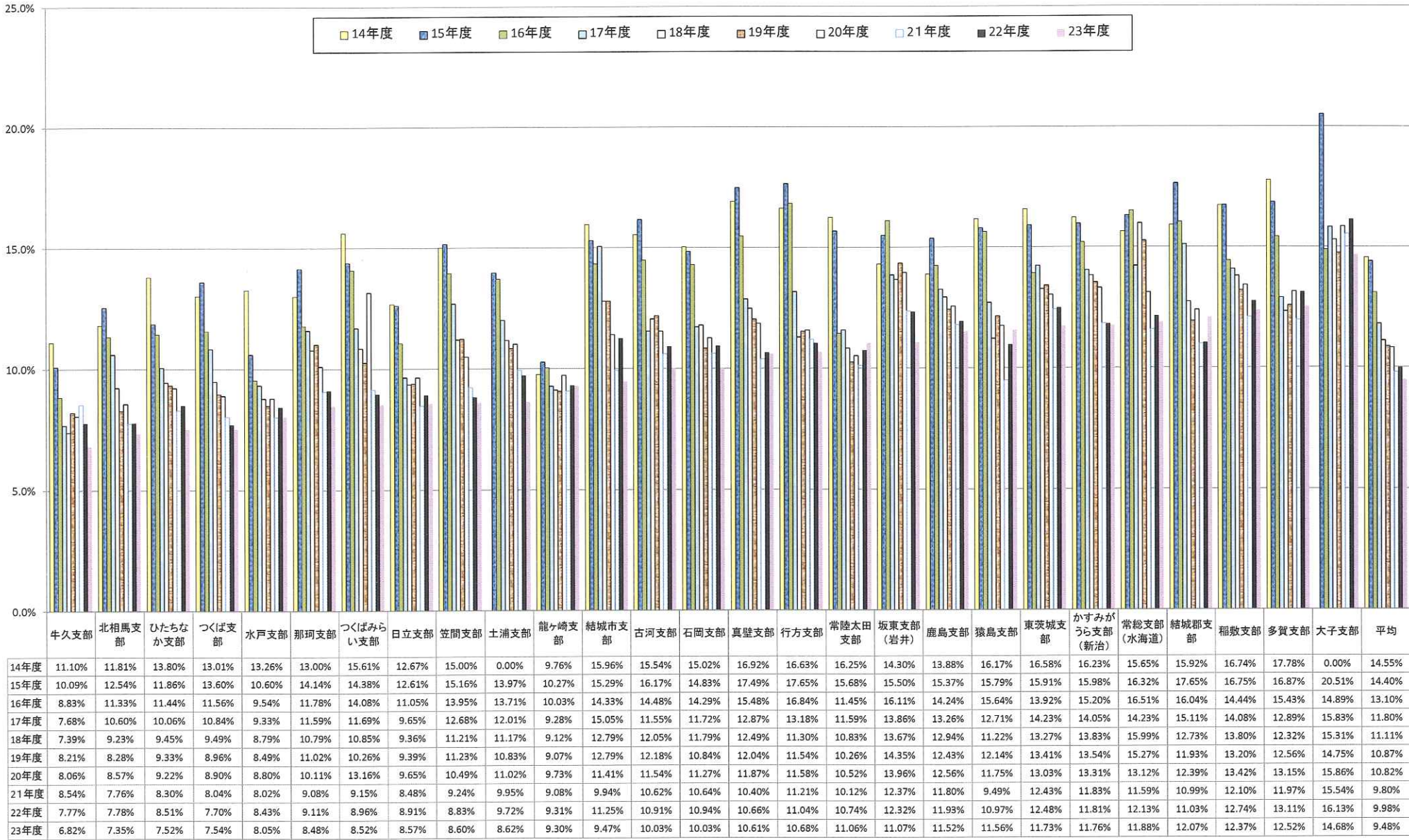
目 次		
1. 支部別肥満児の割合 (小学校)	7. 支部別やせの割合 (小学校)	13. 学年別やせの全国との比較 (男子)
2. " (中学校)	8. " (中学校)	14. " (女子)
3. 学年別肥満児の割合 (小学校)	9. 学年別やせの割合 (男子)	15. 支部別重度肥満児の割合 (小学校)
4. " (中学校)	10. " (女子)	16. " (中学校)
5. 10年間の経時推移 (男子)	11. 学年別肥満児の全国との比較 (男子)	17. 肥満調査結果の考察
6. " (女子)	12. " (女子)	

肥満対策委員会		
委員長 山脇 英範	委 員 荻野 義重	委 員 倉田 隆子
委 員 高橋 正彦	" 齋藤 謙一	" 檜山 洋子
" 平野 岳毅	" 佐藤 隆文	" 樋口 教子
" 平野 千秋	" 藤崎 芳男	" 山口 広美
" 野末 裕紀	" 高山 朋子	

※ 詳細は各支部保健会事務局送付のCDをご覧ください。

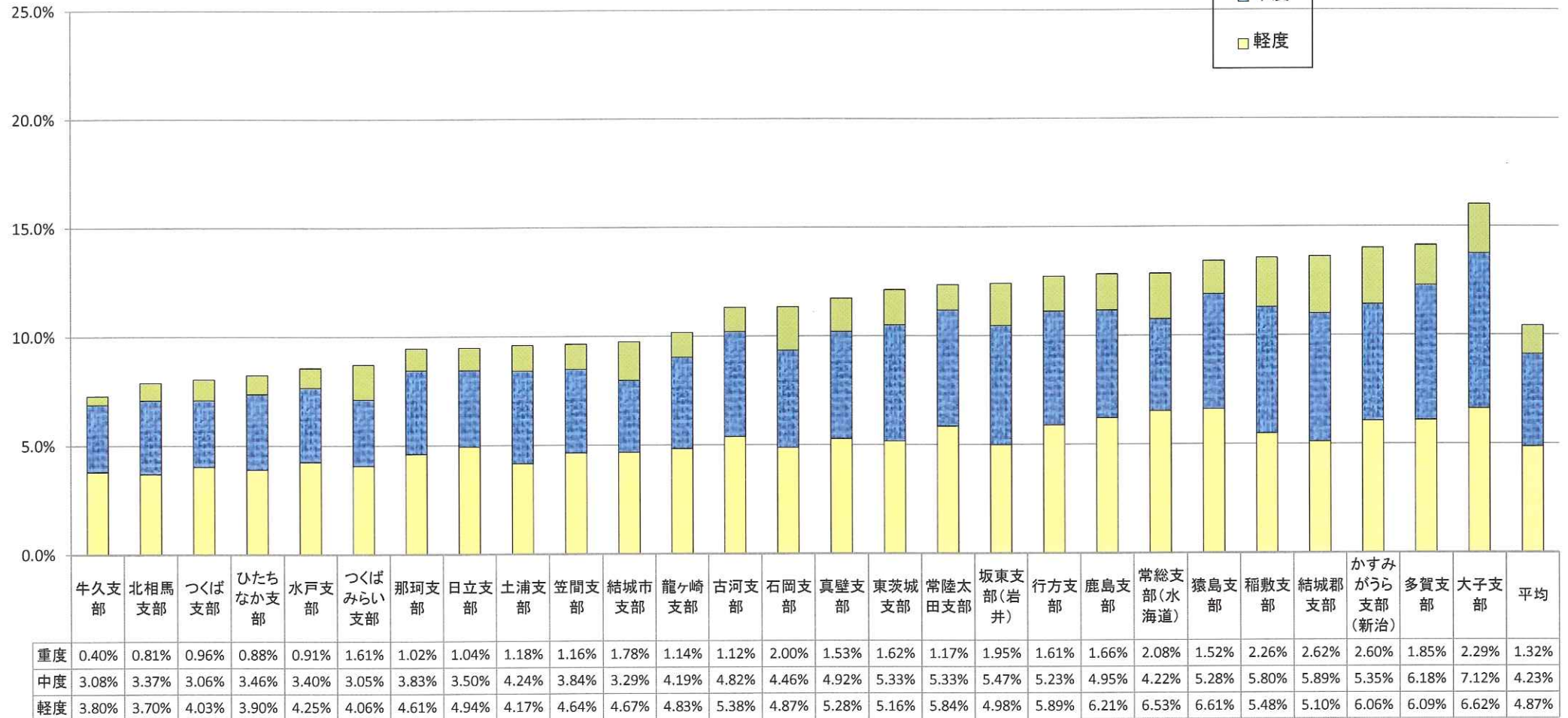
平成23年度支部別肥満児の割合[小学校]

図1



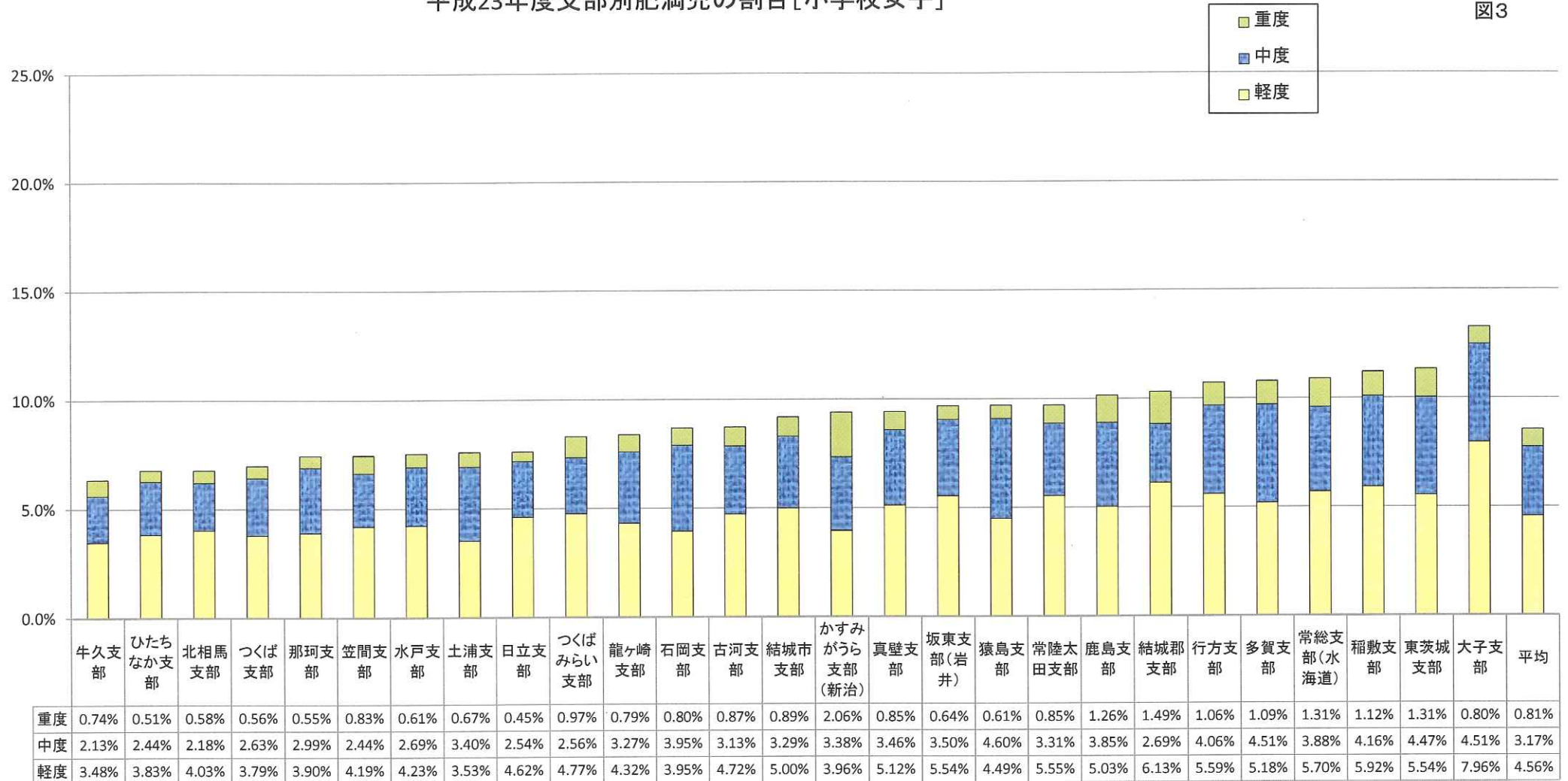
平成23年度支部別肥満児の割合[小学校男子]

図2



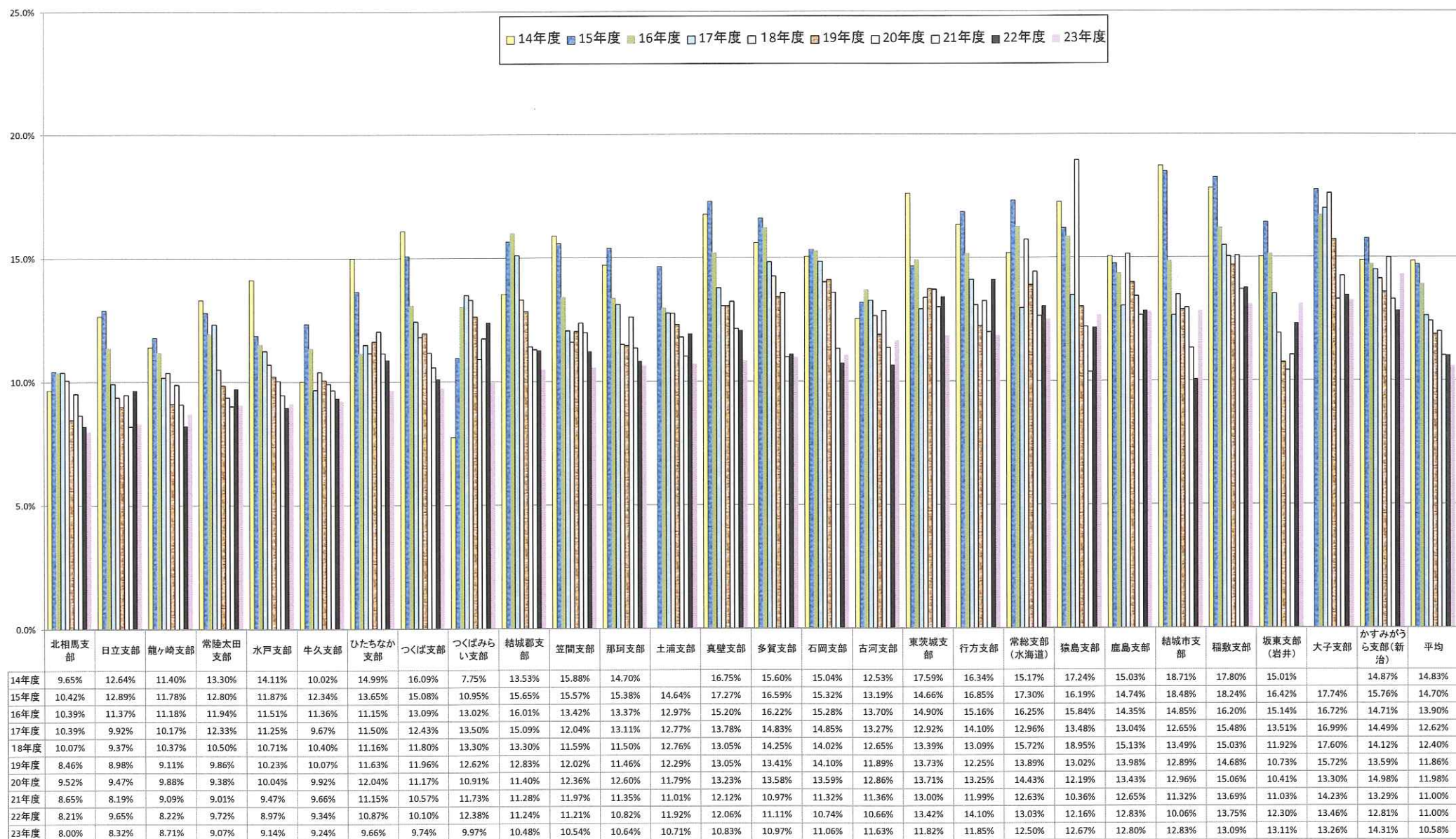
平成23年度支部別肥満児の割合[小学校女子]

図3



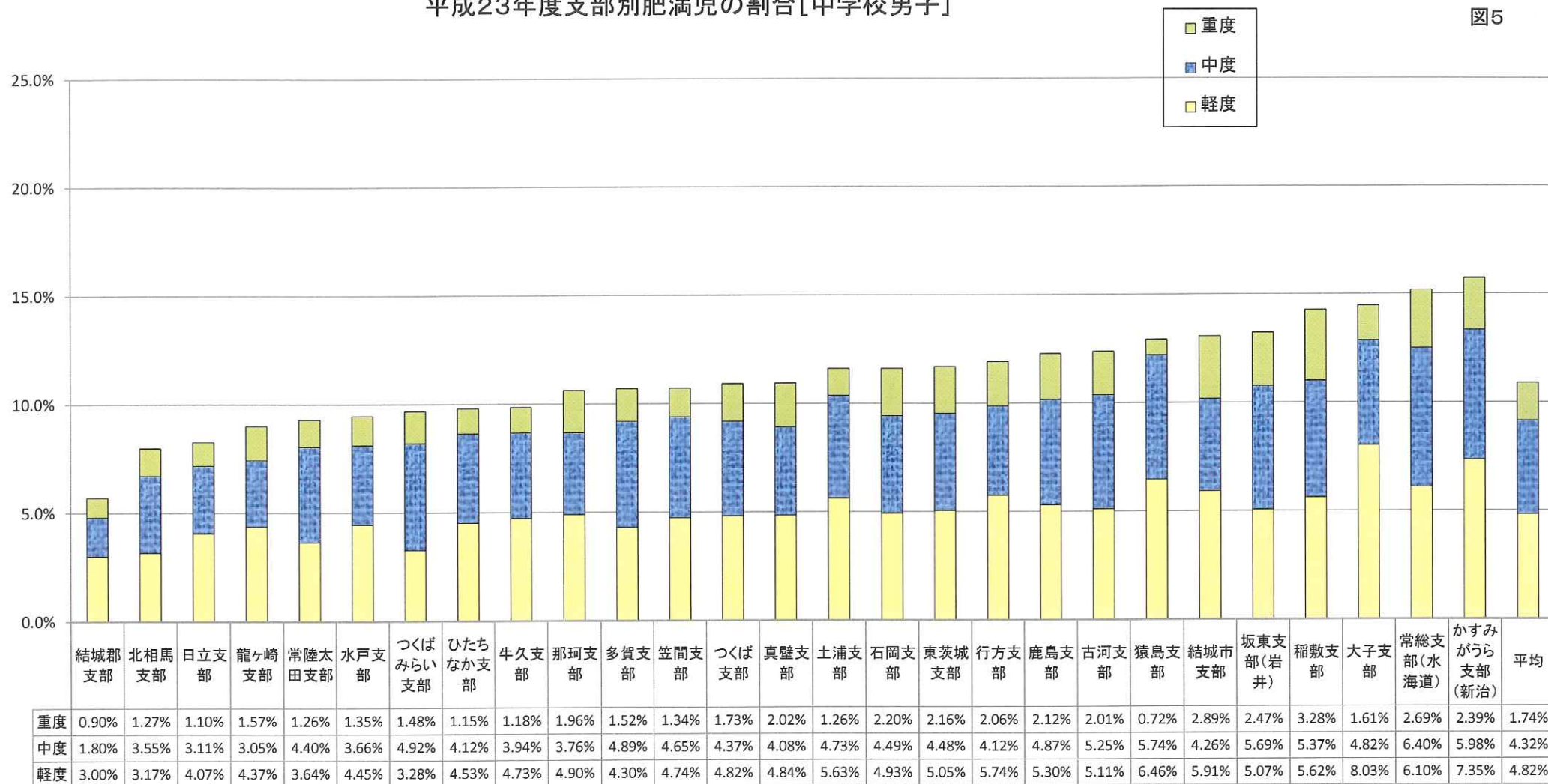
平成23年度支部別肥満児の割合[中学校]

図4



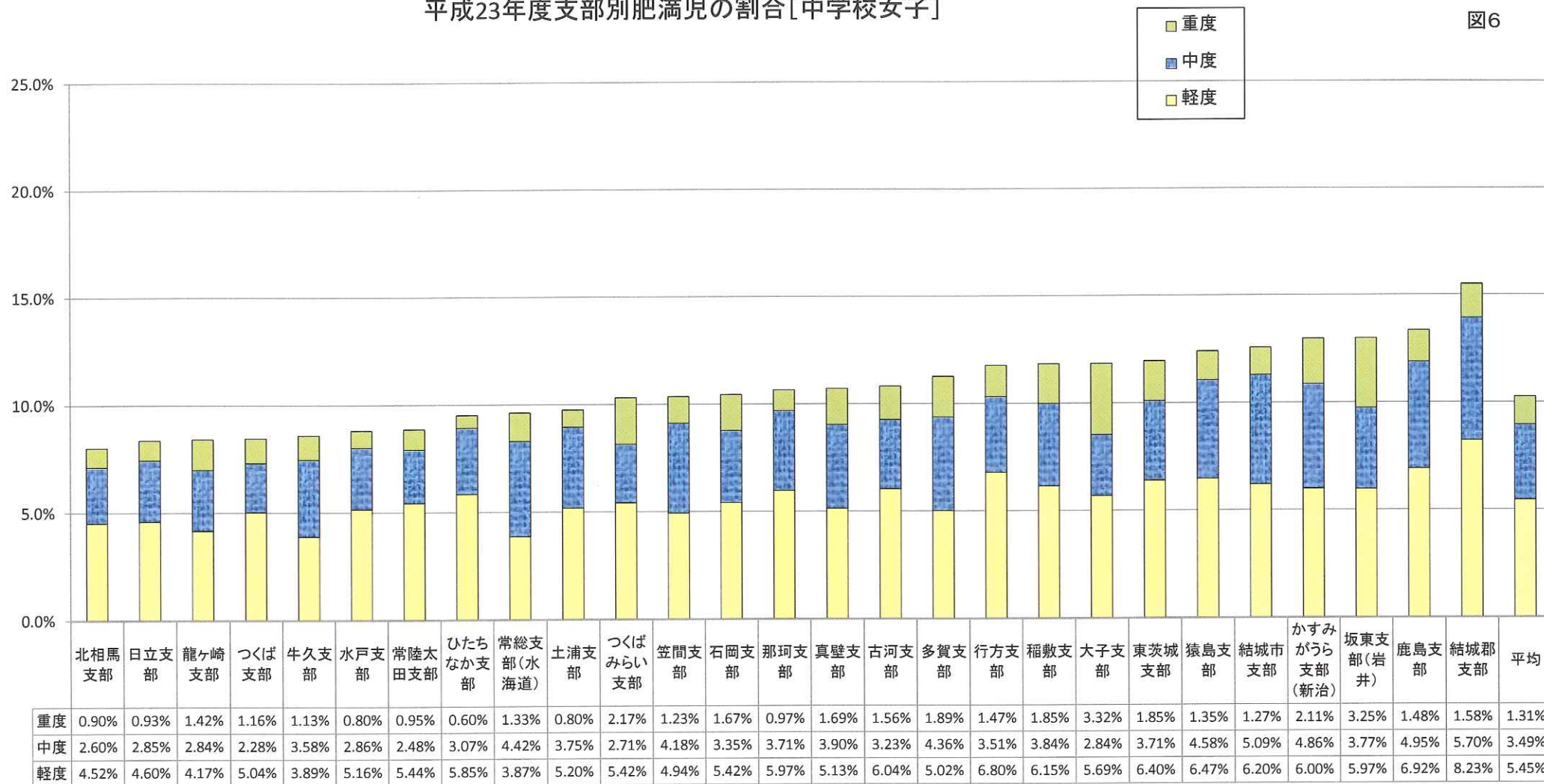
平成23年度支部別肥満児の割合〔中学校男子〕

図5



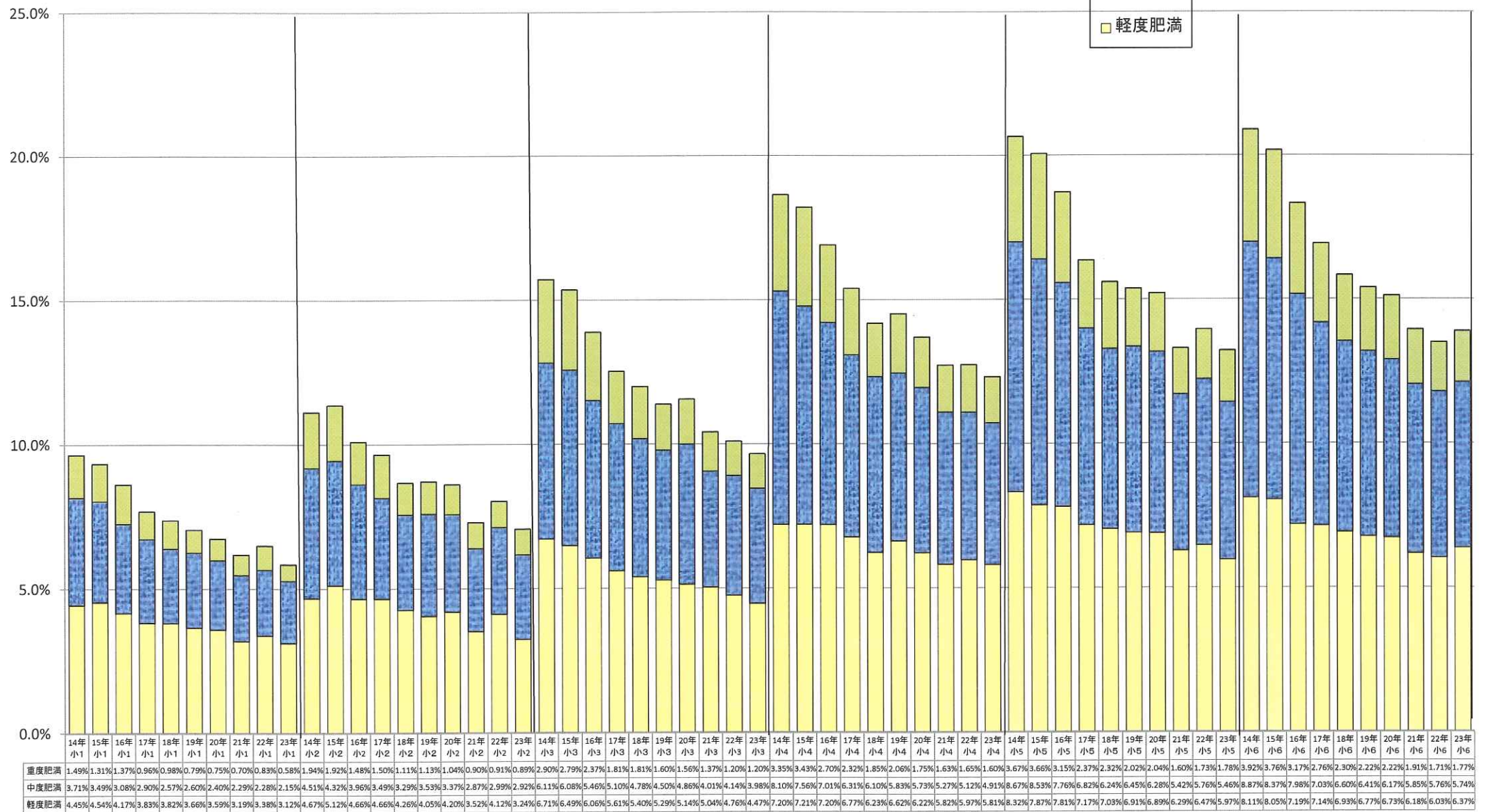
平成23年度支部別肥満児の割合[中学校女子]

図6



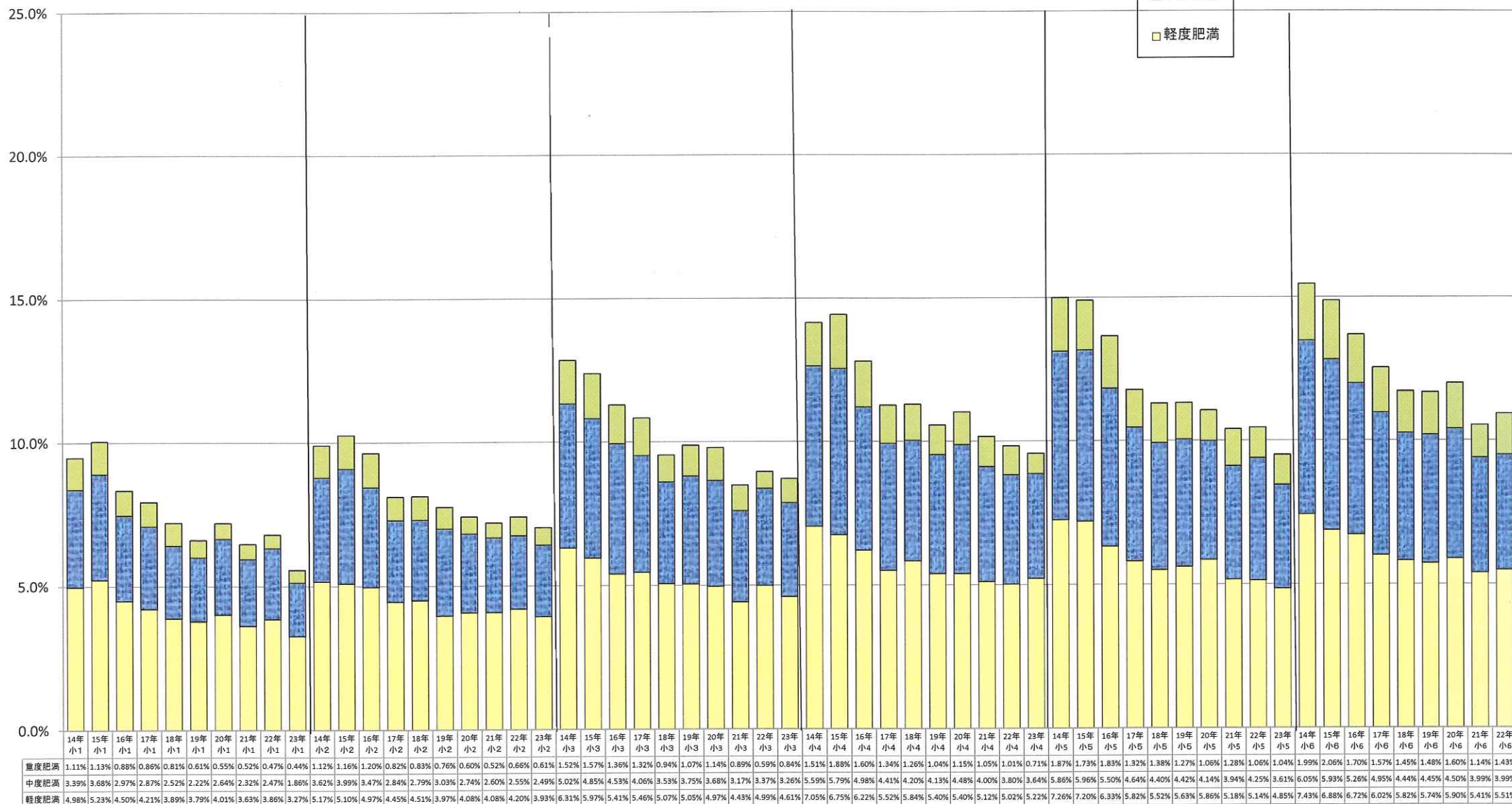
平成23年度学年別肥満児の割合[小学校男子](過去10年間の比較)

図8



平成23年度学年別肥満児の割合[小学校女子](過去10年間の比較)

図9



平成23年度学年別肥満児の割合[中学校男子](過去10年間の比較)

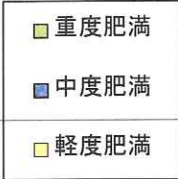
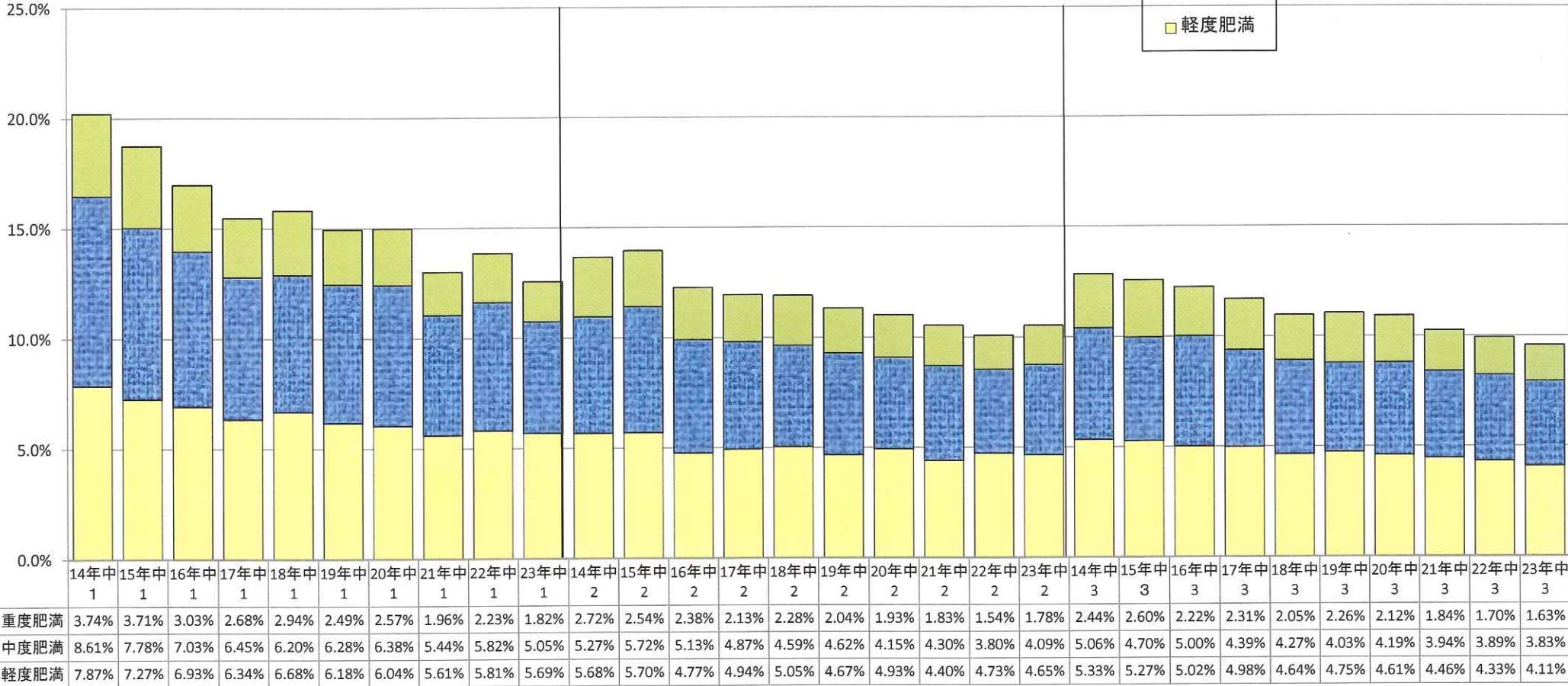
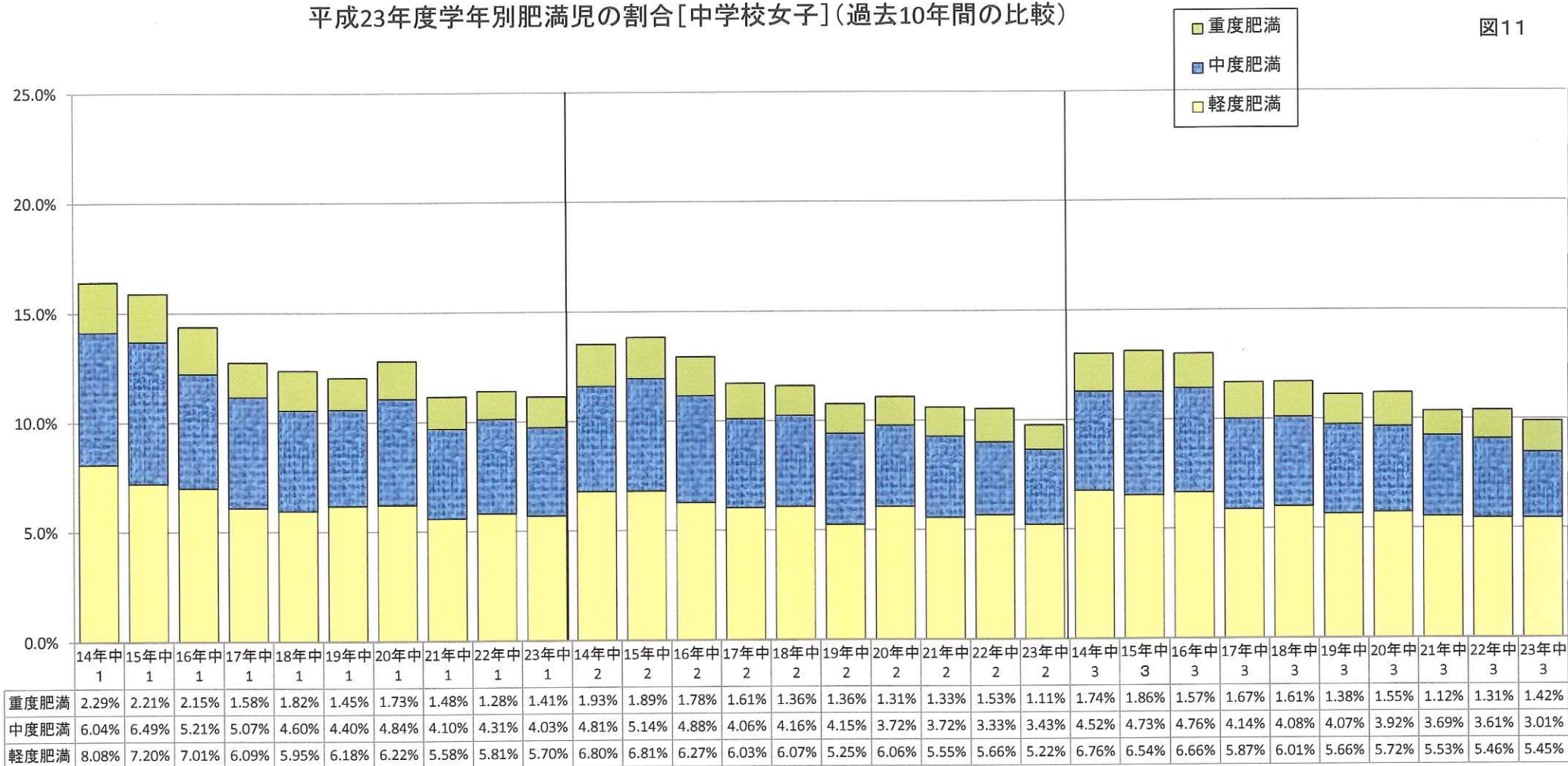


図10



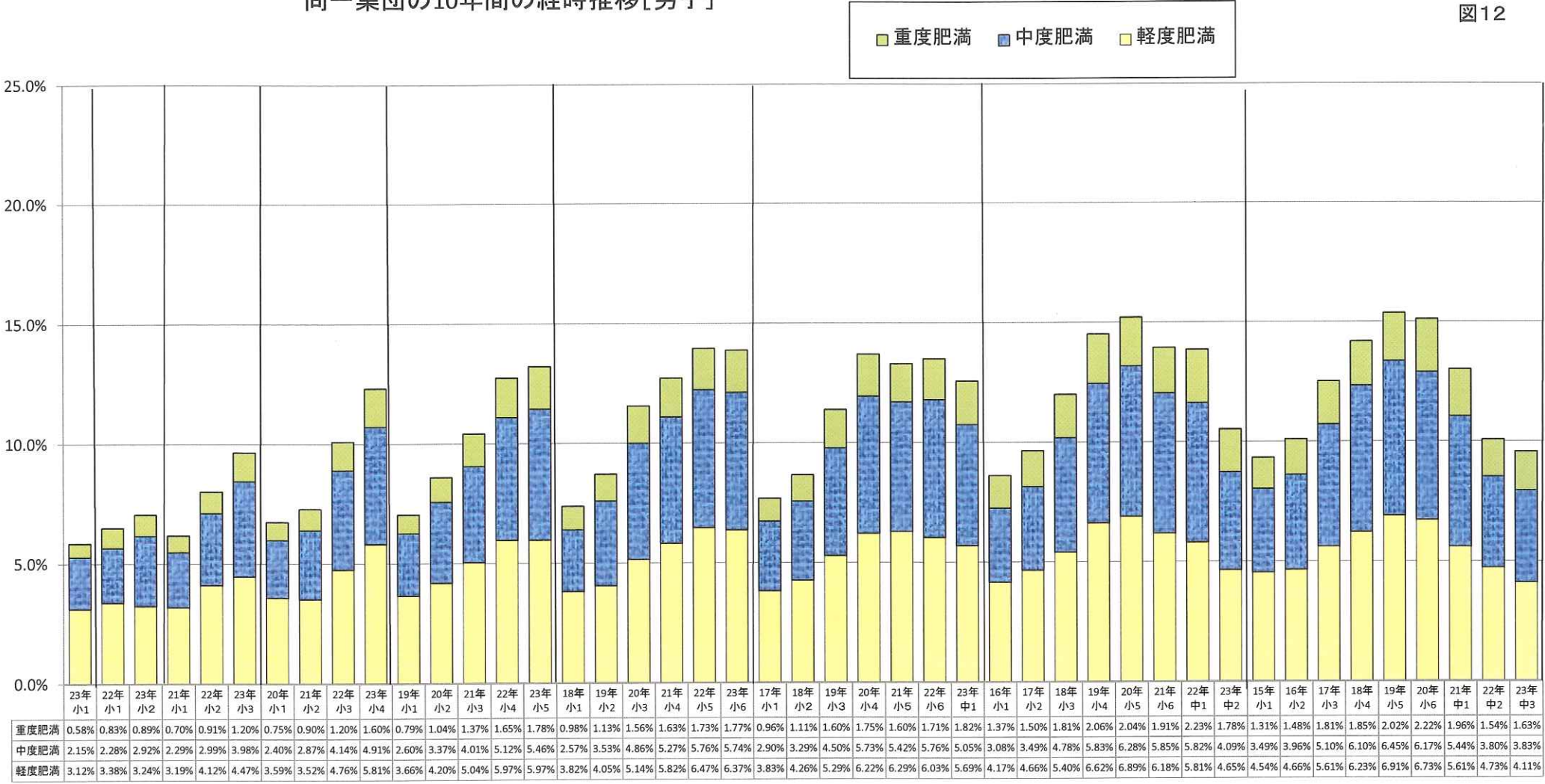
平成23年度学年別肥満児の割合[中学校女子](過去10年間の比較)

図11



同一集団の10年間の経時推移[男子]

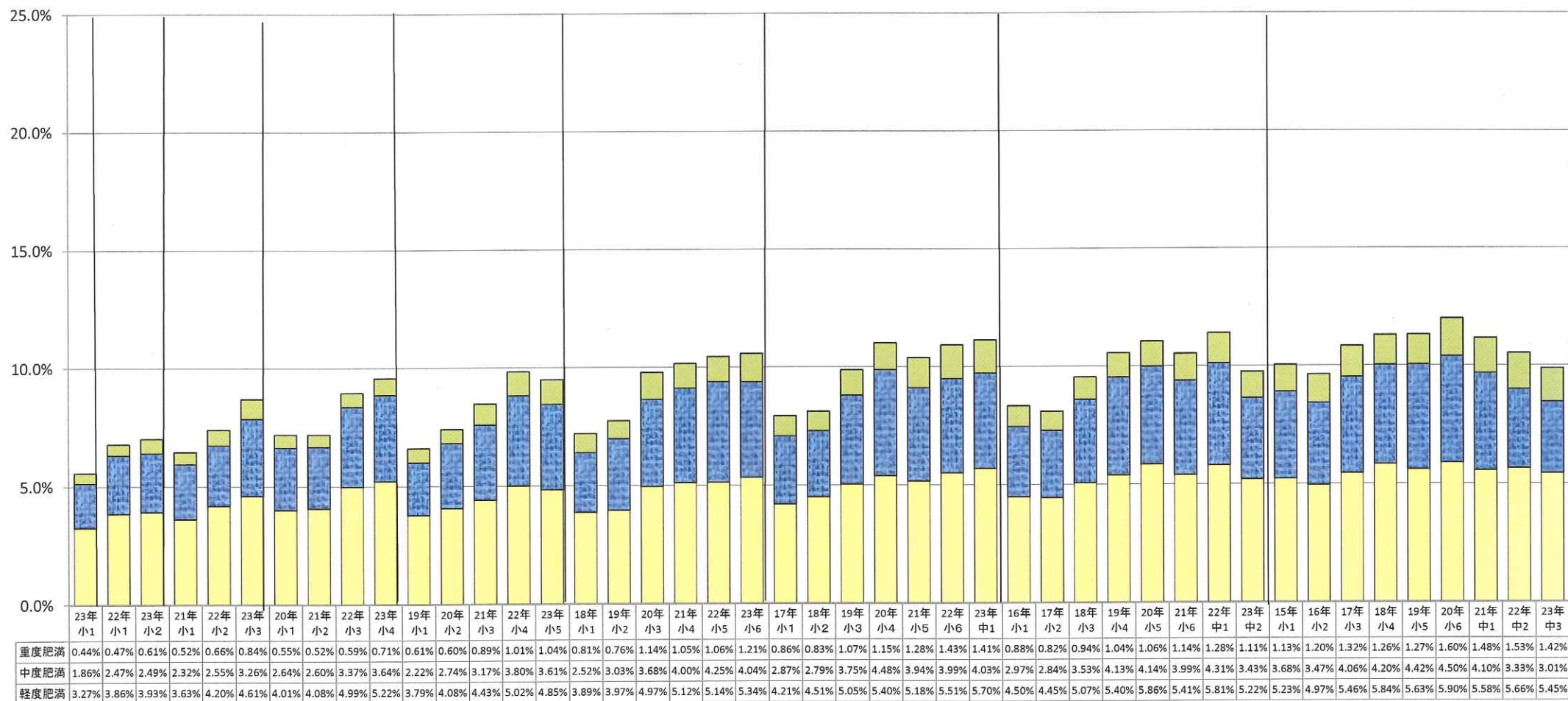
図12



同一集団の10年間の経時推移[女子]

■ 重度肥満 ■ 中度肥満 ■ 軽度肥満

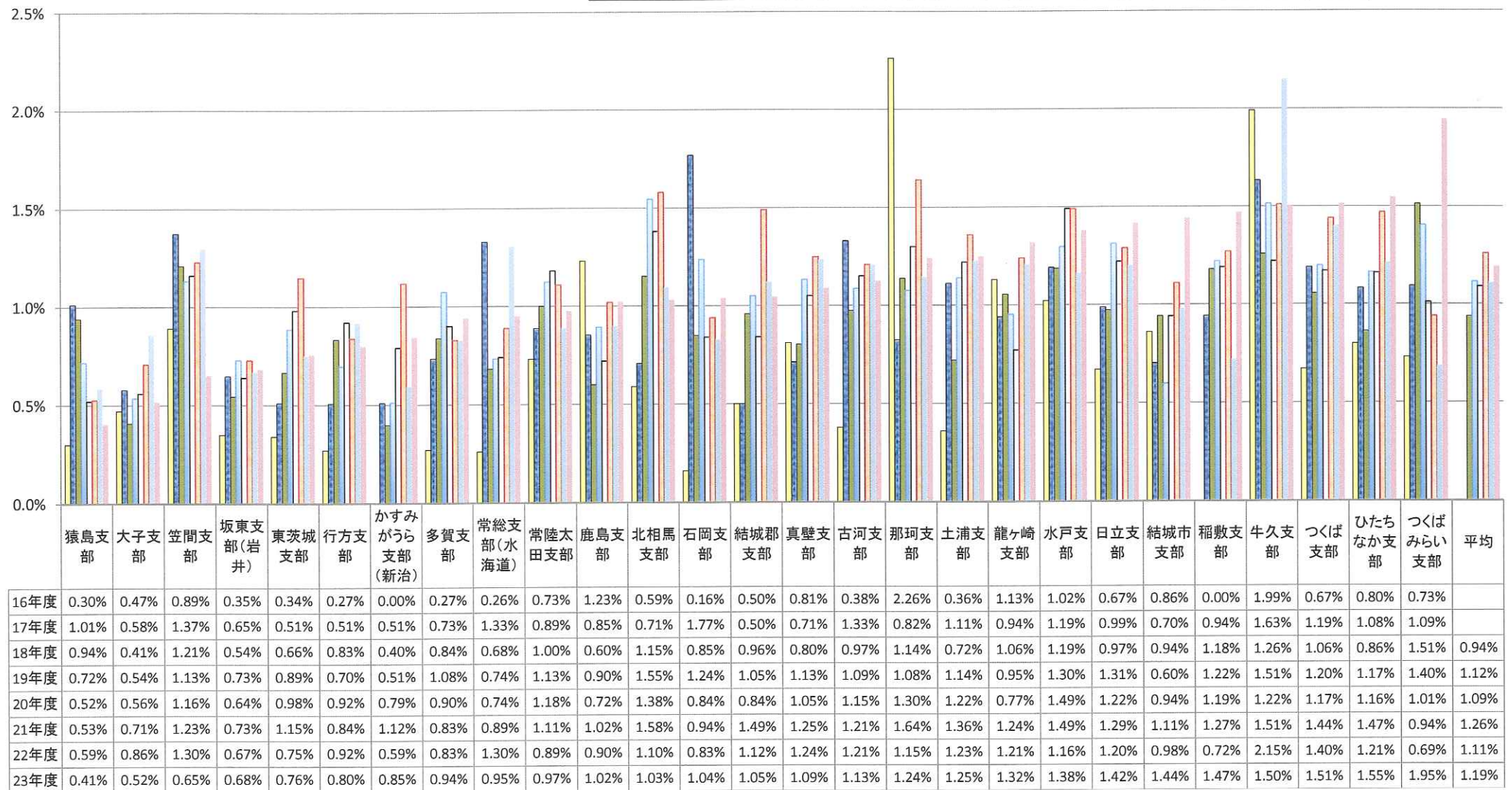
図13



平成23年度支部別やせの割合〔小学校〕

■ 16年度
 ■ 17年度
 ■ 18年度
 ■ 19年度
 ■ 20年度
 ■ 21年度
 ■ 22年度
 ■ 23年度

図14



平成23年度支部別やせの割合[中学校]

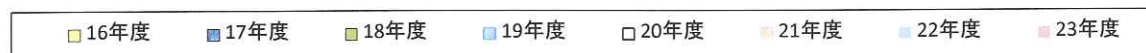
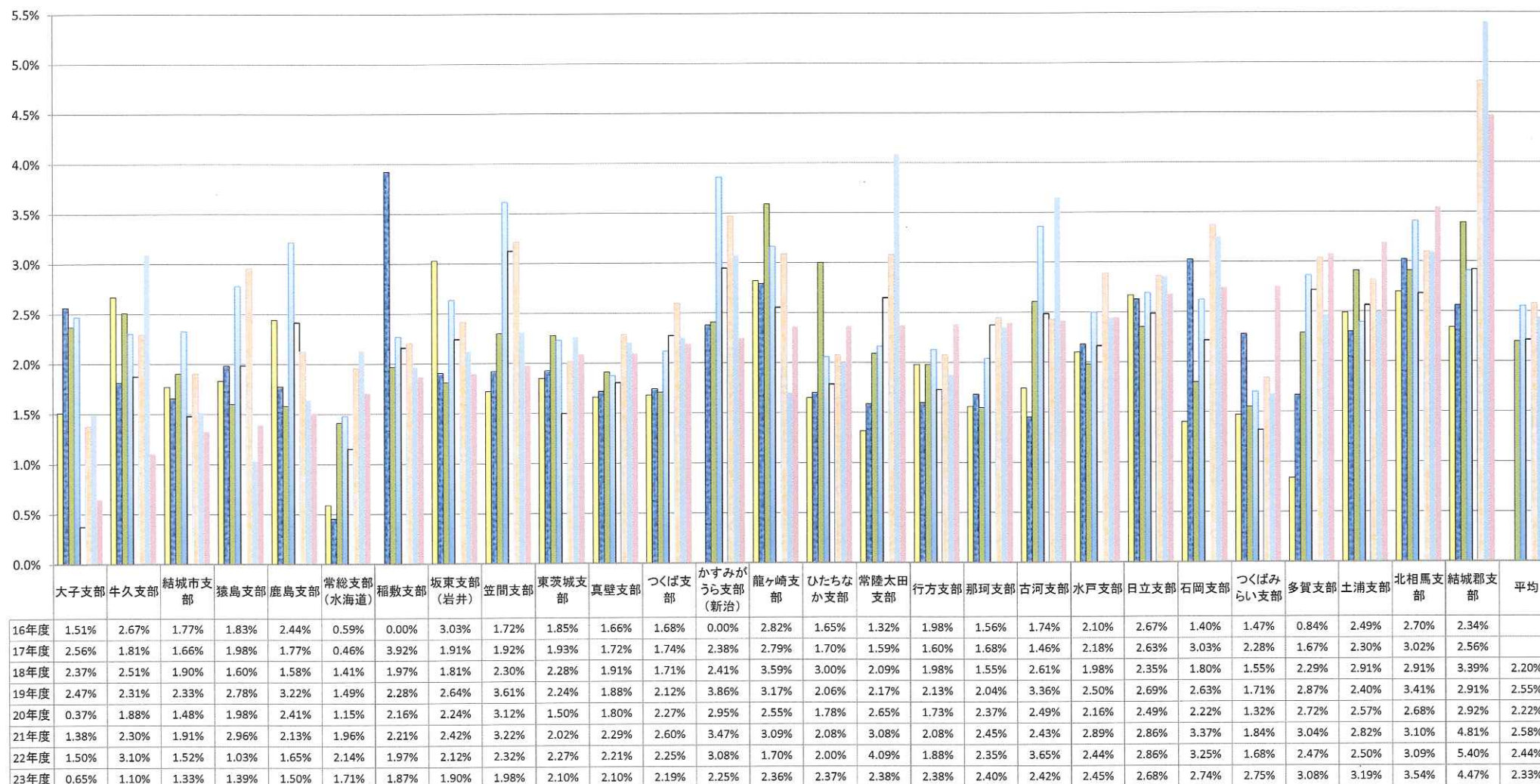
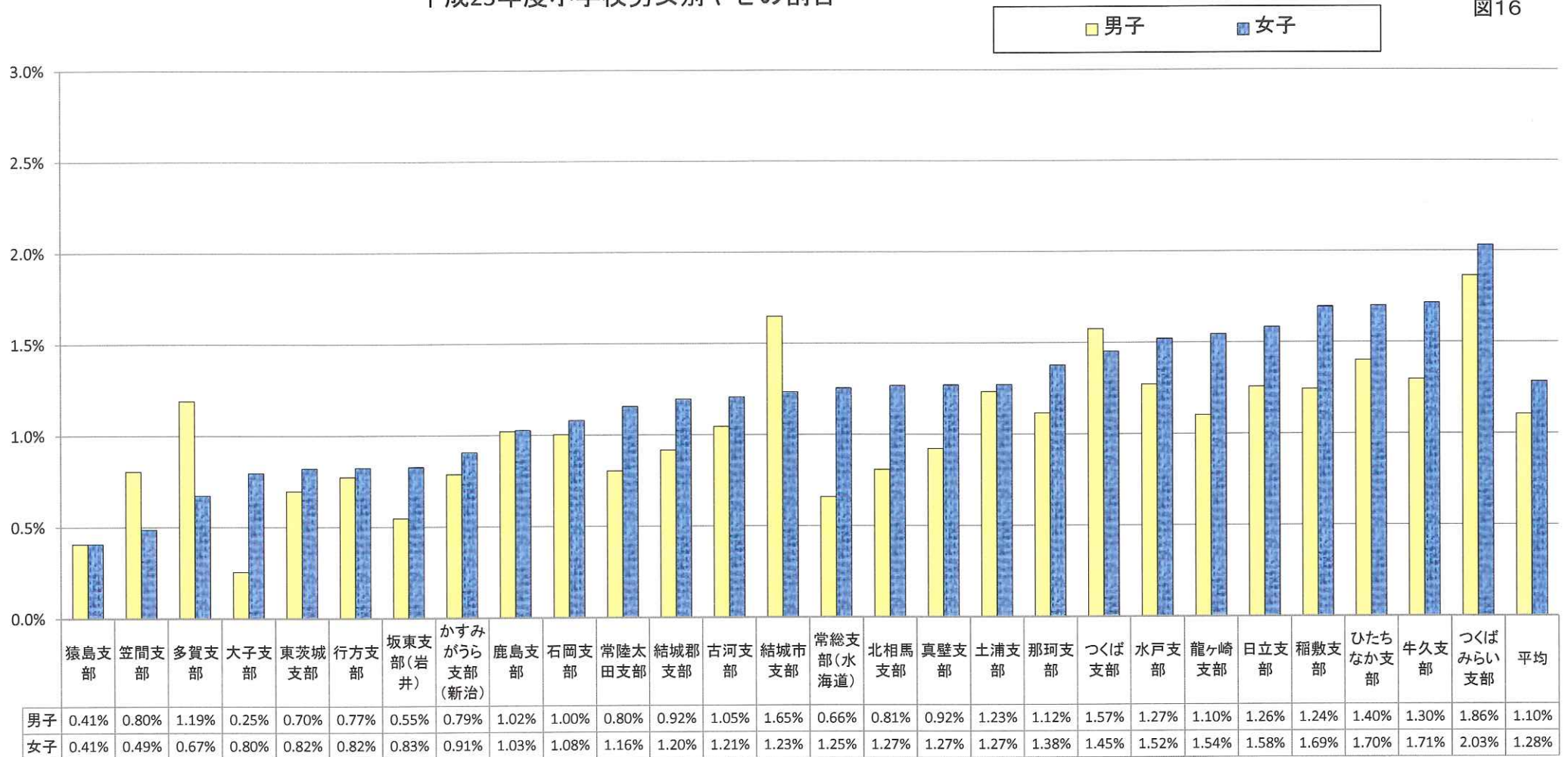


図15



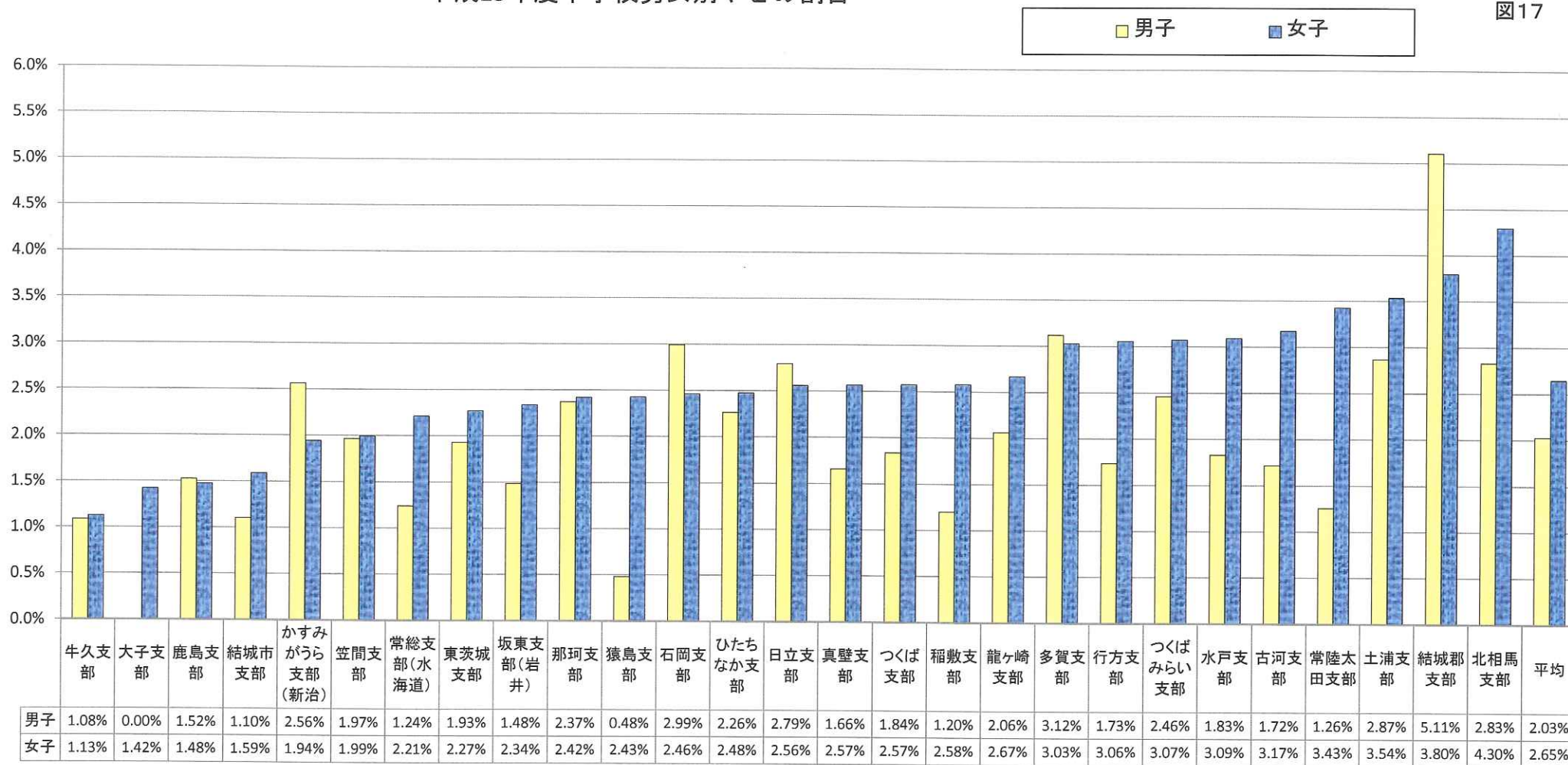
平成23年度小学校男女別やせの割合

図16



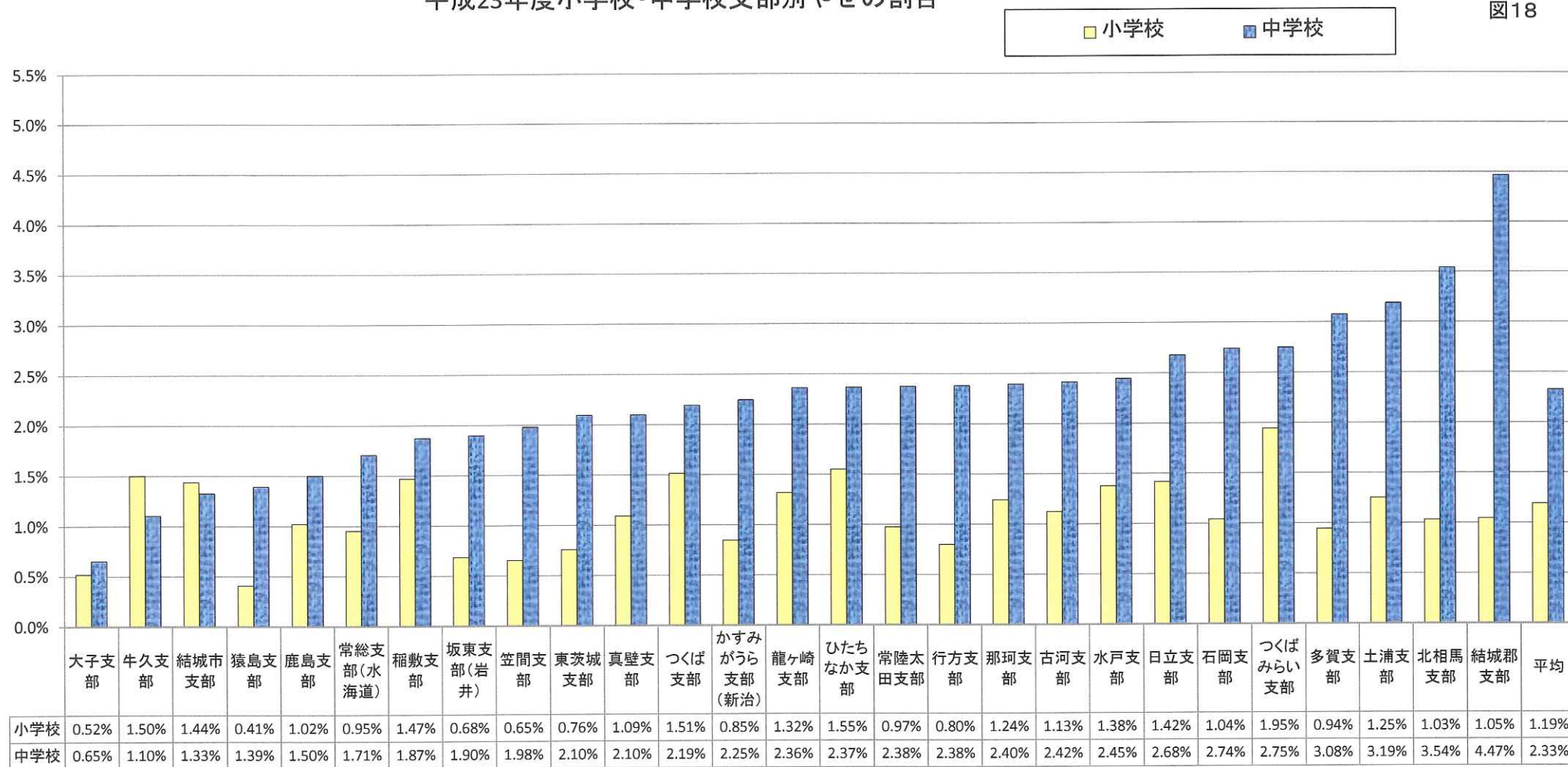
平成23年度中学校男女別やせの割合

図17



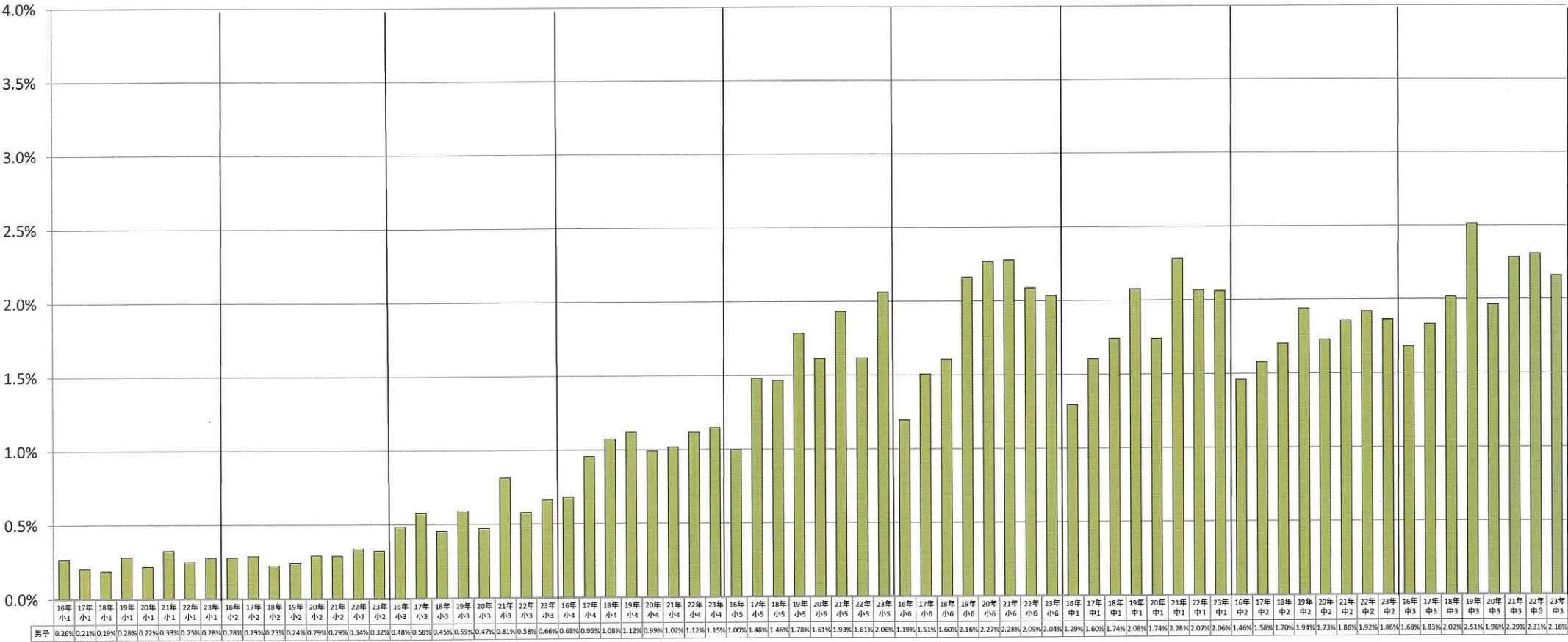
平成23年度小学校・中学校支部別やせの割合

図18



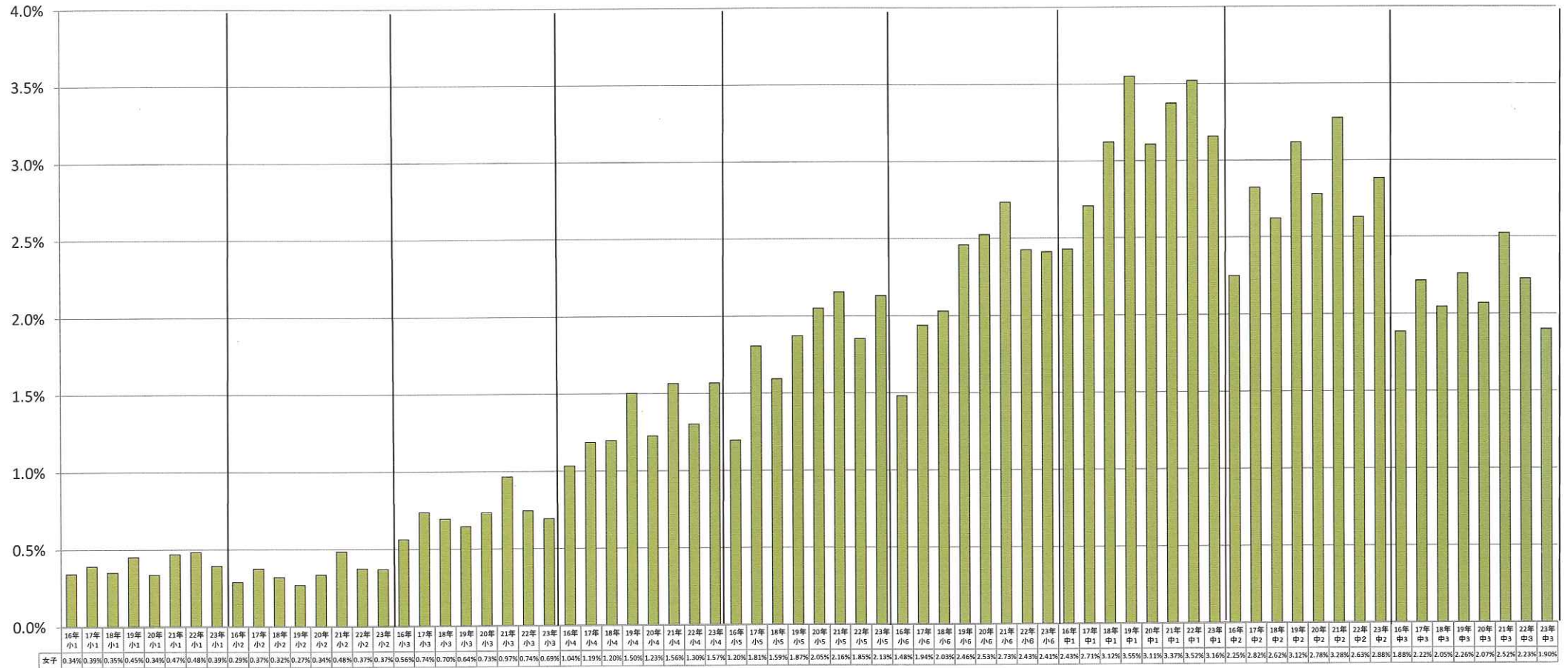
平成23年度学年別やせの割合[男子](過去8年間)

図19



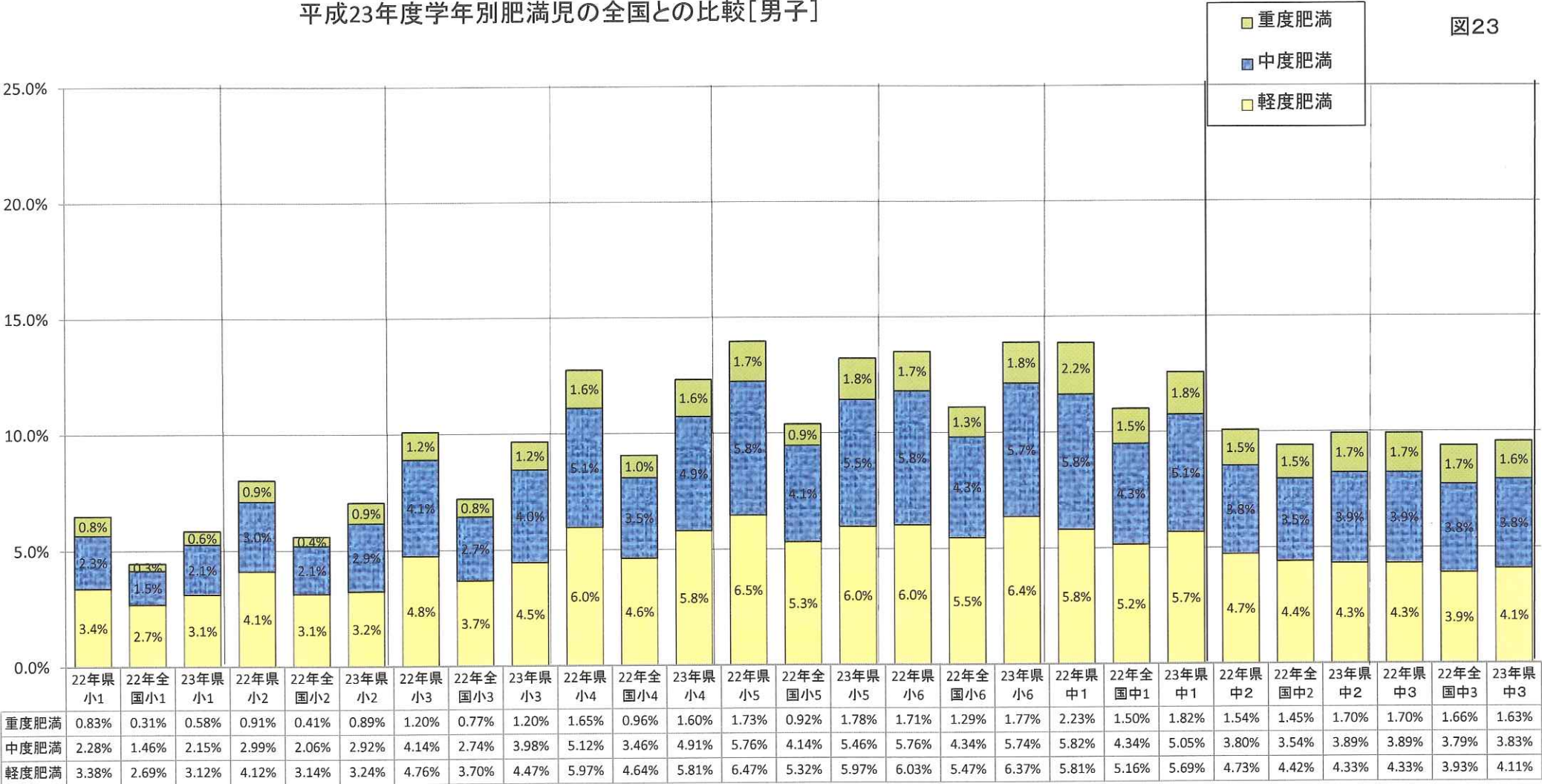
平成23年度学年別やせの割合[女子](過去8年間)

図20



平成23年度学年別肥満児の全国との比較[男子]

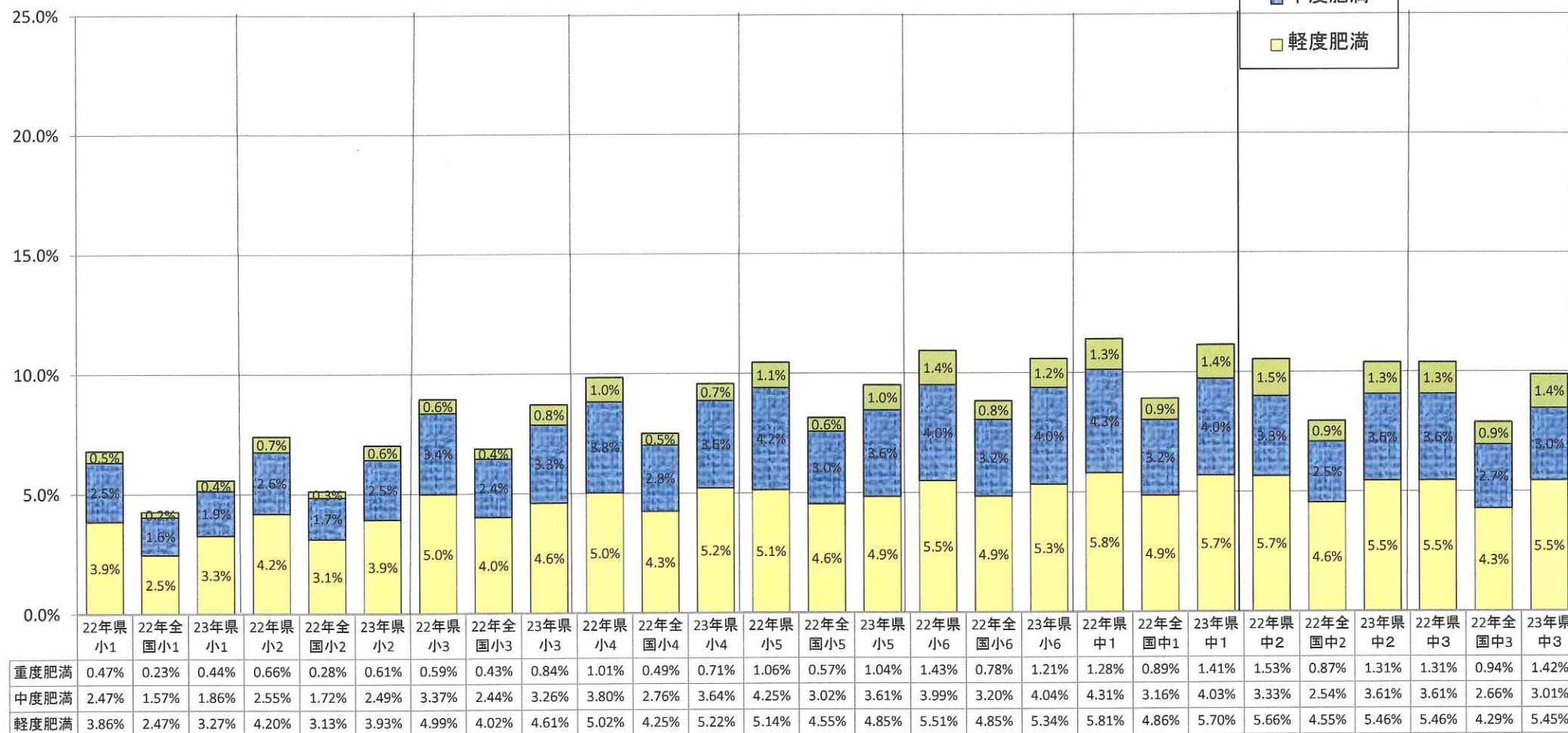
図23



平成23年度学年別肥満児の全国との比較[女子]

■ 重度肥満
■ 中度肥満
■ 軽度肥満

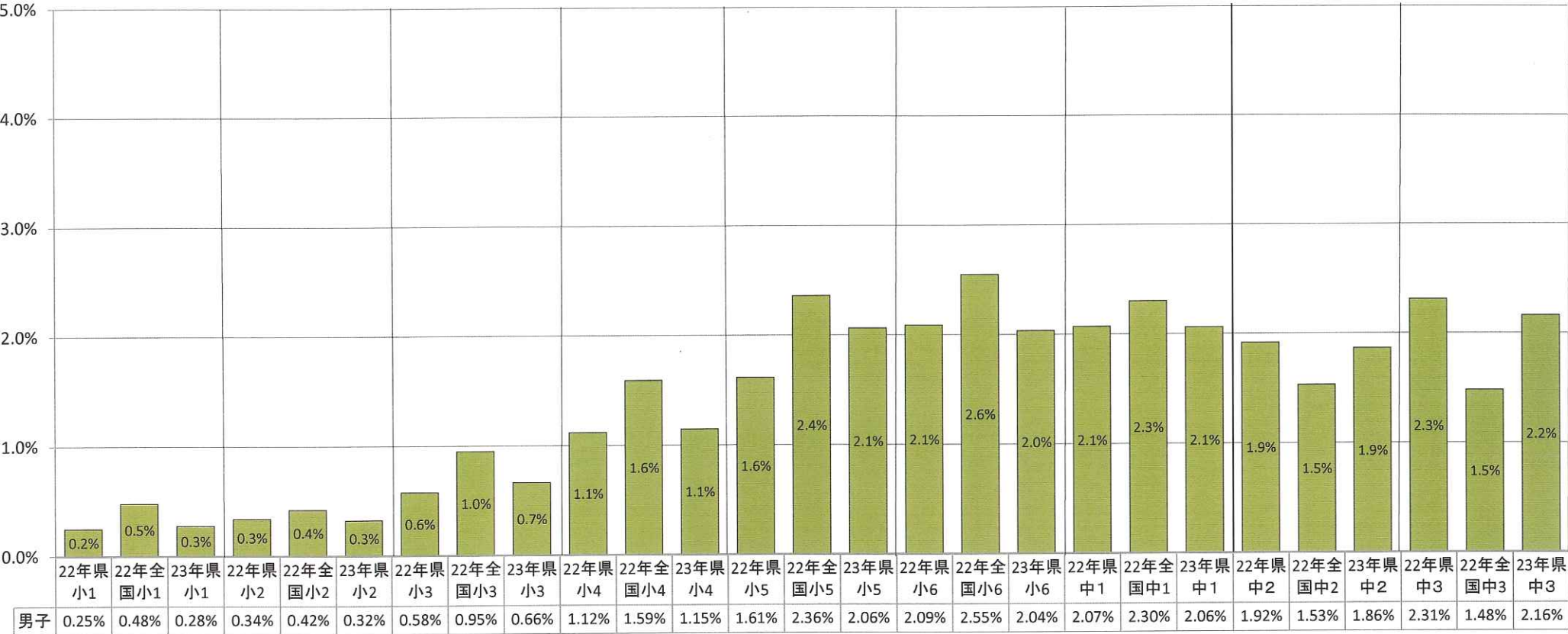
図24



平成23年度学年別やせの全国との比較[男子]

■ 男子

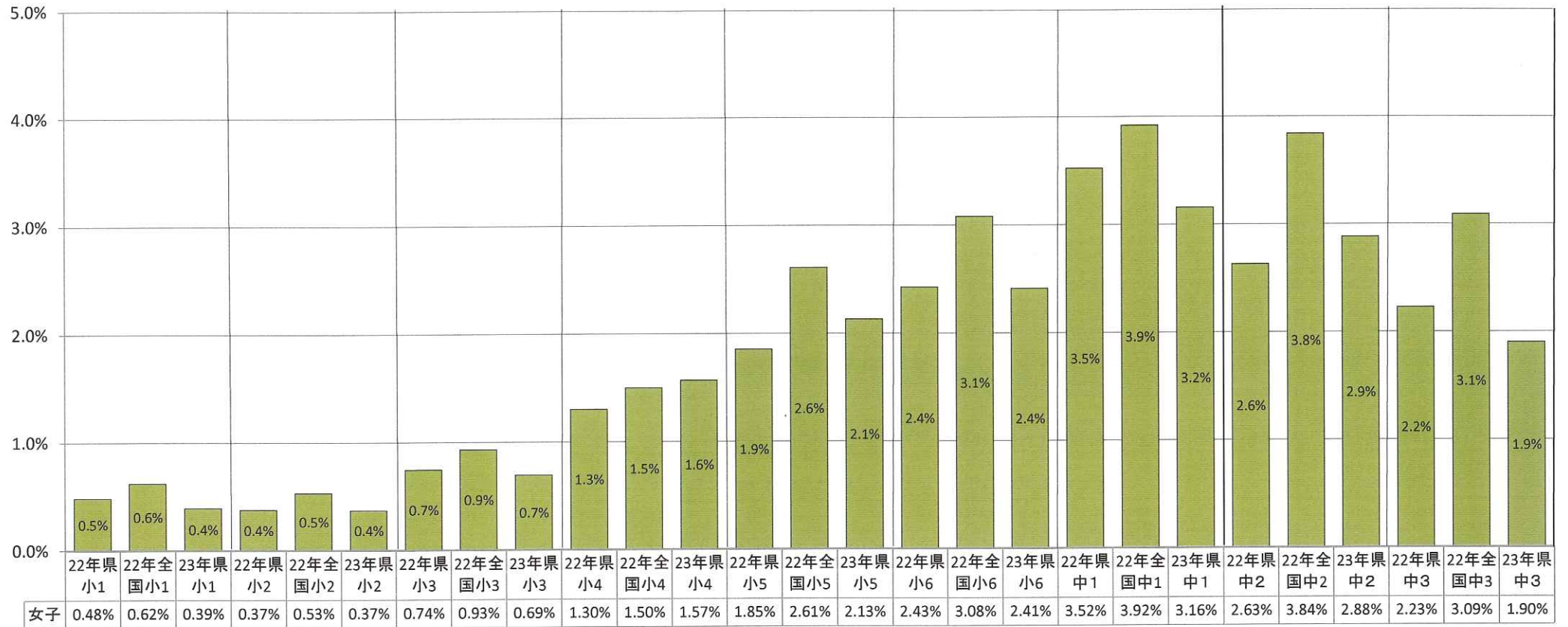
図25



平成23年度学年別やせの全国との比較[女子]

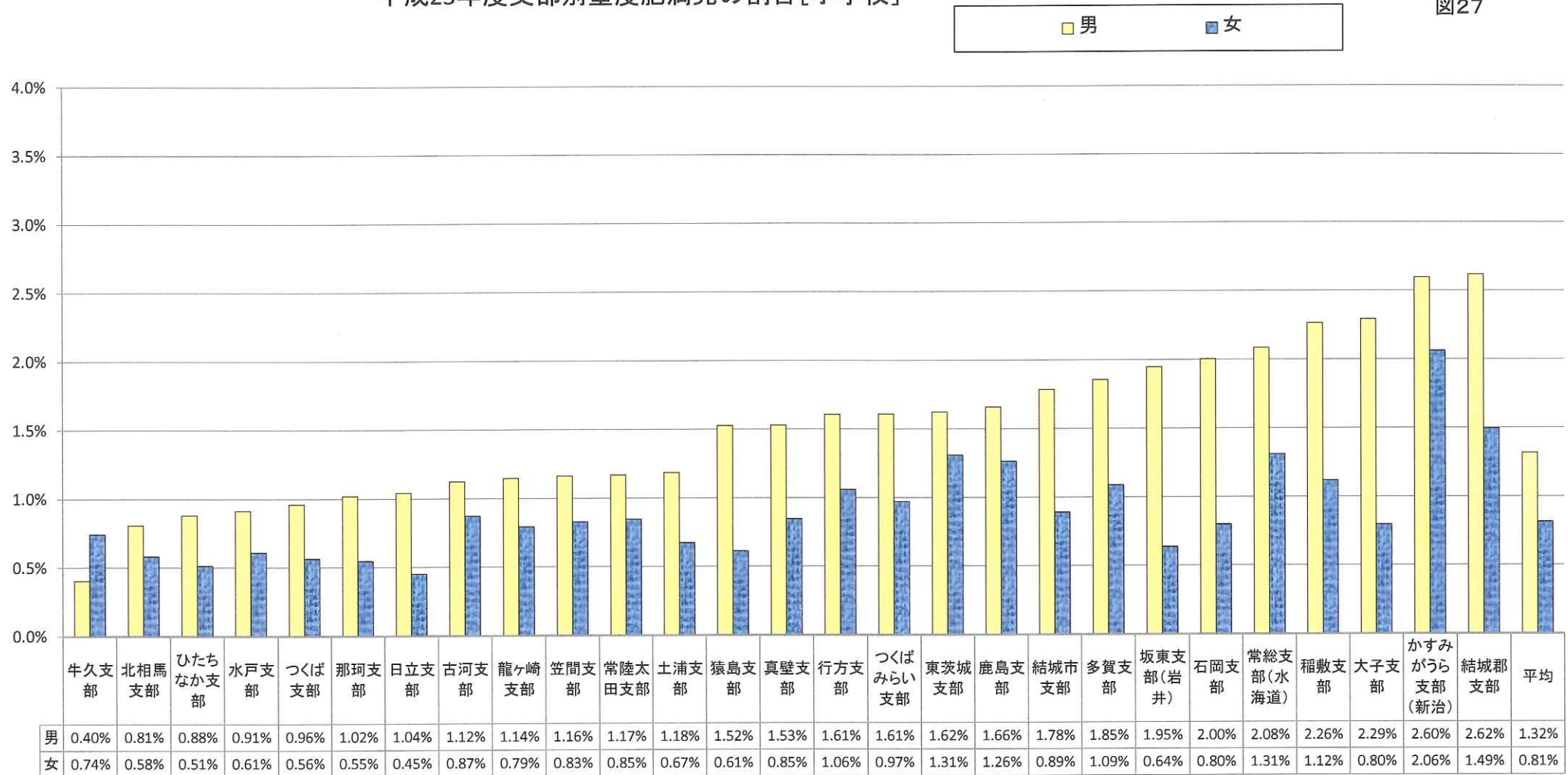
■ 女子

図26



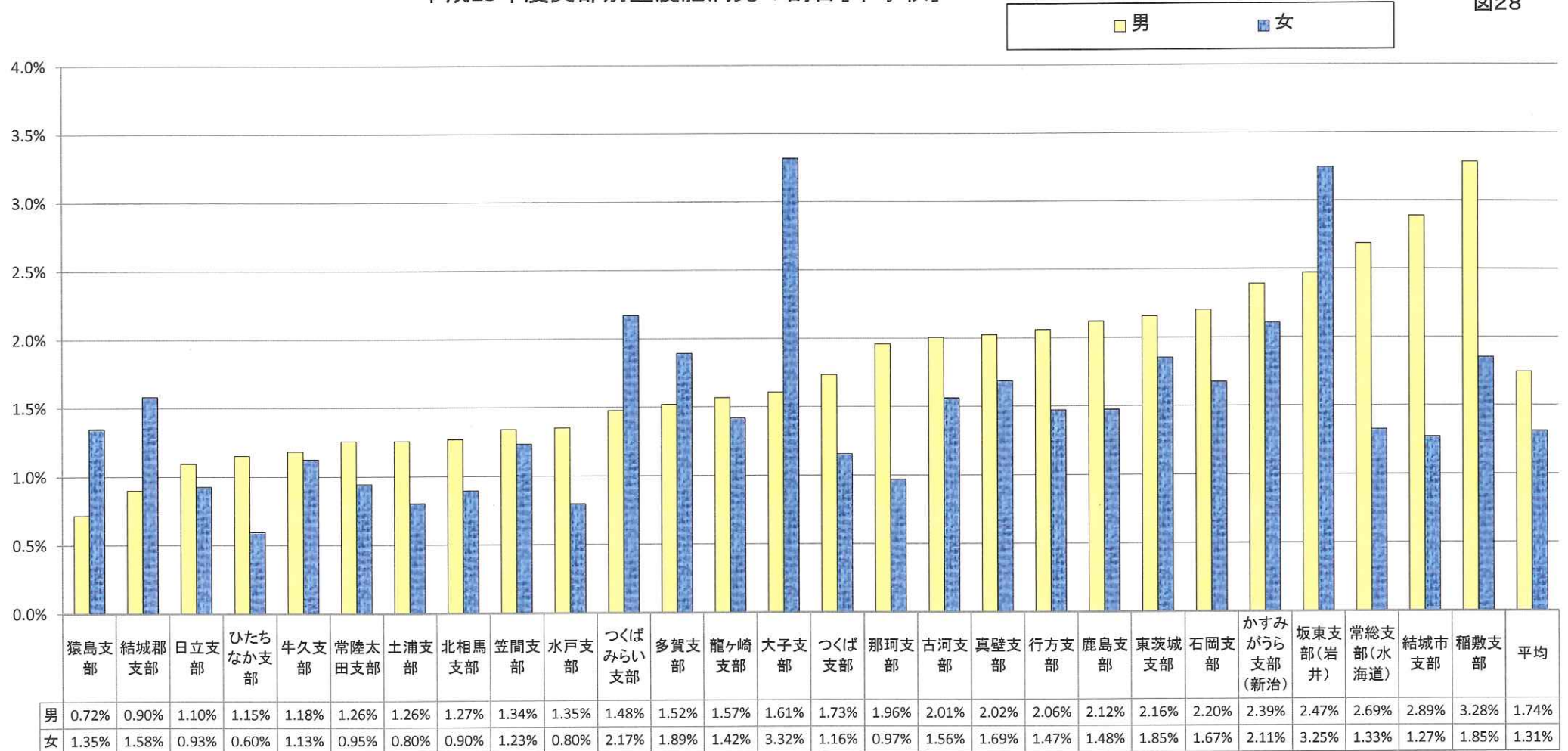
平成23年度支部別重度肥満児の割合[小学校]

図27



平成23年度支部別重度肥満児の割合[中学校]

図28



平成23年度肥満調査結果の考察

平成14年度から行っている肥満調査（やせについては平成16年度から調査）を、茨城県学校保健会27全支部の協力を得、県内の小学生164,158名、中学生80,825名、計244,983名を対象に実施し、その結果をまとめた。

1 支部別肥満児の割合

1) 小学校（図1・2・3）

- ・年々減少している肥満児の割合は一昨年度から10%未満になり、今年度も10%未満の9.48%である。昨年度は一昨年度より少し増加したが、今年度は減少し、調査以来最も少ない数値である。
- ・肥満度10%未満だった支部は昨年度より1支部多い12支部である。
- ・肥満児の割合が低率である上位11支部は牛久・北相馬・ひたちなか・つくば・水戸・那珂・つくばみらい・日立・笠間・土浦・龍ヶ崎であり、昨年度も低率上位の11支部である。
- ・肥満児の割合が高率である下位3支部は太子・多賀・稲敷であり、昨年度も下位の3支部である。
- ・昨年度より肥満児の割合が減少した支部は24支部と、ほとんどの支部で減少している。肥満児の割合が高率な3支部も昨年度より減少している。
- ・昨年度と比較して特に減少の多かった支部は結城市・板東（岩井）・土浦である。

2) 中学校（図4・5・6）

- ・小学校同様、年々減少している肥満児の割合は、昨年度減少が見られなかったが、今年度は減少し、調査以来最も少ない10.58%である。
- ・肥満児の割合が低率である上位6支部は北相馬・日立・龍ヶ崎・常陸太田・水戸・牛久であり、昨年度も低率上位の6支部である。
- ・肥満児の割合が高率である下位2支部はかすみがうら・太子であり、昨年度も下位の2支部である。今年度、上位の支部に変化はなかったが、高率下位の支部は2支部が同じであったほかには変化がある。
- ・昨年より肥満児の割合が減少した支部は19支部である。
- ・肥満児の割合が10%未満だった支部は9支部で、昨年度より3支部増えている。

3) 小学校と中学校の比較

- ・例年同様、小学校より中学校の方が肥満児の割合は約1%多い。

4) 男女の比較

- ・小学校の県平均は、軽度・中度・重度、いずれも女子より男子の方が多く、ほとんどの支部で同様の傾向がみられる。また、それは例年同様の傾向である。
- ・中学校の県平均は、軽度・中度は男子の方が多く、高度は女子の方が多く。また、それは例年同様の傾向である。
- ・今年度、小学校・中学校ともに、軽度・中度・重度すべてで減少している。

2 学年別肥満児の割合

1) 過去10年間の比較(図8・9・10・11)

- ・例年、男女とも小学校は学年が進むにつれ肥満児の割合が増加し、中学校は学年が進むにつれ肥満児の割合は減少していたが、今年度は中2女子より中3女子が多い。
- ・ほとんどの学年で昨年度より肥満児の割合は減少しているが、小6男子・小5・6女子・中2男子で増加している。
- ・中学校女子はどの学年でも減少し、特に中2・3女子は初めて10%未満になる。中3男子も10%未満になる。
- ・小学校で男女とも小1の肥満児の割合が大きく減少している。男子は重度肥満・女子は中度・軽度で減少する。

2) 10年間の経年推移(図12・13)

- ・男子は小学5年生をピークに、その後は減少する。特に中学2年生で大きな減少がみられる。
- ・女子は小学3年生で大きく増加しその後も増加、中2から減少するが、男子のような大きな減少はみられない。そのため、中3では男子の方が肥満児が少なくなる。

3 やせについて

1) 支部別の割合(図14・15)

- ・小学校ではやせが増加し、中学校では減少している。
- ・小学校で昨年度よりやせの割合が減少したのは10支部、中学校では17支部である。

2) 男女別の割合(図16・17)

- ・ほとんどの支部で女子の方がやせの割合が多い。中学校の方が男女差が大きい。

3) 小・中学校別の割合(図18)

- ・ほとんどの支部で小学校より中学校の方がやせの割合が多い。

4) 過去8年間の学年別割合(図19・20)

- ・男子は年々増加し、小学5年生で大きく増加、その後大きな変化はみられない。
- ・女子は学年が進むにつれ増加し、中学1年生をピークに、2年生から減少する。小4・5、中1で大きく増加する。

5) 8年間の経年推移(図21・22)

- ・男女ともに学年が進むにつれ増加するが、女子の方が1年毎の増加率が大きい。特に女子の中学1年生の時の増加率が大きい。しかし、その後中2・中3と減少する。

4 全国平均との比較

1) 肥満児の割合 (図 2 3・2 4)

- ・どの学年も全国平均と比較するとかなり多い。特に重度肥満児の割合が多く、小1男女・小2男女・小3女子・小5男女で約2倍と全国平均との差が大きく、例年より多い。
- ・男子は中学2年生で肥満児が減少し、全国平均の割合に近くなる。女子には男子のような肥満児減少時期がみられない。

2) やせの割合 (図 2 5・2 6)

- ・男子は中1まで全国平均より少ないが、中2から全国平均より多い。昨年度と同様の傾向である。
- ・女子は小4で全国平均よりやや多い。他の学年は全国平均より少ない。

5 まとめと今後の課題

平成14年から肥満調査を実施してきて、年々順調に減少してきた肥満児の割合は平成19年頃から減少率が緩やかになり、一昨年度は大幅な減少がみられ、昨年度は小学校で増加、中学校では同率であった。小学校では10%未満になり、これ以上の減少はないかと思われたが、小中学校ともに、今年度また減少した。

小学校では一昨年度、調査以来初めて10%未満となった。今年度も減少し、3年連続で10%未満であったことは、成果である。

ただ、全国平均と比較すると本県はまだ肥満児の割合が多い。さらに肥満防止、生活習慣の改善に努力をしていきたい。

また、今年度1年生の重度肥満児は減少したが、他学年で重度肥満児が全国平均の約2倍となっている学年がみられた。昨年度までは、就学時に多かった重度肥満の割合も学年がすすむにつれ全国平均との差が少なくなっていたが、今年度は差が縮まらず約2倍のままの学年が増えた。重度肥満の解消の難しさを考えると、就学前の肥満対策と、小学校低学年で解消させるための対策を講じたい。今年度も、家庭はもちろん、幼稚園や保育所との連携も考えていくことと、小学校での食育・運動習慣等への取り組みが課題である。

肥満児の多い地域、少ない地域が固定しており、生活習慣はもちろん地域の特性も関係すると考えられる。児童生徒のみでなく保護者や学校医と学校が連携し改善を図りたい。その意味でも、生活習慣記録表の活用を呼びかけていきたい。そして、さらに「咀嚼からみた肥満対策」として食育・食習慣への取り組みも行いたい。

やせは全国平均より少ないが、いずれもよりよい生活習慣を身につけることができるよう、肥満児と同様、注意してみていきたい。

やせは全国平均より少ないが、いずれもよりよい生活習慣を身につけることができるよう、肥満児と同様、注意してみていきたい。

今年度、取り組みの一環として、学校保健会が主催となり「肥満指導と咀嚼」研修会が開かれた。長年のアンケート結果から、肥満指導に取り組んでいる学校の実践発表や、各専門分野からの講義・講演が行われ、小中学校の養護教諭・栄養教諭が参加し研修することができた。